

# 四学部は入試中止

## 東教大 全評議員があす辞任

坂田文相は東大との協議のあと二十九日午後六時から約一時間東京教育公館川学長代理らと協議した結果、文、理、教育、農の四学部について来年度の入試を中止することを決定した。同大学では学生ストを行なっていない体育学部だけが入試を実施する。

この日の協議では、さきにストを解除した農学部の扱いが焦点となったが、二十八日の協議では入試を実施したいとしていた大学側

が「また不安定な要素があり、入試については消極的な姿勢をとらざるをえぬ」と態度を変更、文部省もこれを了承したもの。なお文相は三十日午後五時半から東京外語大の小川学長と会い、同様入試の扱いを協議する。

# 白え交渉

## 字で切抜けか

省 部 文

いとしている。定員をふやす正式な臨時増募の可能性については、追加予算要求の時期をすでに失したとして悲観的。局長会議の論議は、水増し率の最高をどこに置くか、関連学部のワク内だけで消化できるかなどにしばられている。

ら除外しなければならぬことでは一致している。水増しのワクも五十一〇割が限度であり、関連学部だけではとても消化できない見通し。結局、関係の薄い教員養成学部の水増しもはからなければならぬとみられている。

とりあえず特殊な専門教育を行なっている東京、神戸、両商船大や、今年新設されたばかりの九州芸術工科大などを振替えの対象か

東大、教育大が国立大全体の総ワクの中に占める割合は、学部によって非常な差がある。国立大の四〇割を占める教育学部（教員

養成学部を除く）をトップに、二〇割以上の文学部、一〇割以上の法、理学部から五割の経済、工学部までさまざま。たとえ水増し率の最高を一〇割と見込んでも教育文、法、理学部などは十分な振分けができる見通しはない。これらの学部では来年度の入試がこれまで以上にむずかしくなる公算だ。

また東大医学部保健学科の四十人は、他に保健学専門の学科がないため、振替えの可能性はない。この水増し方式だと、受入れ側の大学の定員をふやすわけではないので、事務手続き上は一番簡単である。しかし、ただでさえマスプロ教育に悩む各大学が、おいそれと引受けるとは考えられず、フタをあげれば水増し率も数割にとどまることにもなりかねない。

また同夜、同大学は四学部の入試中止決定について「国立大学としての機能を果たしえないことになり、重大な責任を感じる。一日も早く全学の総力をあげて、学園の正常化と教育研究の機能の回復をはかりたい」との声明を発表した。